

いしかわ 成人病予防センター だより



2017年9月8日に開催された「がん征圧全国大会」(本多の森ホールにて)

ごあいさつ

公益財団法人 石川県成人病予防センター

理事長 素谷 宏

日頃より当センターの事業に格段のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私が当センターの胃がん検診のレントゲン画像を撮影するようになって約三十年が経ちます。画像を別々に二人の読影医が読み、どちらか重い方の判定が採用され受診者のもとに「異常なし」か「要精検」と通知される仕組みになっています。

「要精検」の通知を受取った受診者は内視鏡検査を受けて最終的にがん「あり」「なし」の判定がなされます。

レントゲン画像の判定は全て人間の目で行われておりコンピュータ判定は研究途上でありまだ実用化には至っておりません。

私達読影医は常に「見逃し」の恐怖と戦いながら読影を行っております。

「見逃し」を少なくするためにどうすればよいか?それには多くの胃がんの画像を読み、がんの異常所見を頭に蓄積しておくしか方法はありません。そのための道具としてセンターでは「胃がん集団検診読影ノート・発見胃がん二二二例の三年通り読影画像掲載」を放射線技師と協力して編集し、この度発刊にこぎ着けることができました。これにより色々な胃がんの顔を知り「見逃し」が少なくなるように願っております。

これについては本文にページを頂き内容について少し詳しく書きましたので一読して頂ければ幸いです。(なお、希望者には無償でお分けしております。)

今年もセンターの標語「正確な検診・迅速な結果通知」を肝に銘じ職員一同努力して参りたいと思っております。

2017年度がん征圧全国大会 金沢市で開催

2017年度がん征圧全国大会が9月8日(金)、金沢市の本多の森ホールで開催されました。

”いしかわ”から発診がん征圧で、かがやきの未来へをテーマに1,200人の参加を頂きました。

記念講演

「明るくさわやかに生きる

「アグネスが見つめた生命」

アグネス・チャン氏 (歌手/日本対がん協会ほほえみ大使)

2017年度がん征圧全国大会にお越しの皆さま、こんにちは。日本対がん協会ほほえみ大使のアグネス・チャンです。なぜ今日、私が呼ばれたのか。もちろん私は2008年から日本対がん協会のほほえみ大使を務めさせてもらっているのですけれど、その理由は私が2007年に乳がんになったからです。今日はぜひその乳がんの話をしてくださいと言われました。

アグネスはタフネス、だったけど・・・

私は香港生まれで香港育ちです。17歳まで香港にいまして17歳から日本にやってきました。おかげさまでちょうど今年で45年になります。この夏62歳になりました。

私の名前はアグネスというのですが、芸能界で働いたり、子育てしたり、学校で教えたりしていても、全然倒れたり休んだりもしない。だから周りの人たちは、私のことをアグネスと呼ばずにタフネスと呼んでいました。

私はある休みの日に、寝転がってテレビを見ていました。右胸がちよっとかゆいかなと思ってかいたら、「あれ、何か硬いものがあったかな」と感じました。もう一回探してみたらありません。でも、またテレビを見ると、やはり少しかゆいのです。おかしいなと思ってまた触ってみたら、「やっぱりあったかなあ」。あつたとしても、すごく小さかったです。普通だったら私はタフネスだから、そのまま続けてテレビを見ていたと思うのです。でも、最初

の唾液腺腫瘍のこともあったので、気にかけていました。

リレー・フォー・ライフとの出会い

私が寝転がって自分の胸を触る10日ぐらい前、リレー・フォー・ライフという活動に参加しました。このリレー・フォー・ライフというのは、アメリカの医師がスタートした活動で、自分の患者さんを助けるための募金活動として、一人で24時間走ったのです。その当時、日本円で約300万円が1日で集まりました。それで患者さんは助かり、周りの人たちはすごくそれに感動しました。日本で初めて行われたのが2006年でした。

2007年、私は芦屋で行われたリレー・フォー・ライフに参加することができました。いっぱい知識を得て戻ってきました。だから自分の胸を触ったときに「もしかしたら私も」という気持ちよぎったのです。

がん告知・手術・闘病

私は本当に自信過剰ですから、その年になるまでマンモグラフィを受けたことがありませんでした。

私はその日、乳がんの検査を受けて、併せて超音波の検査を受けました。先生は結果を見て、「うーん、何か映っているね。30歳だったら炎症を疑うのですが、えっ、もう50歳を過ぎてるんですか。これは乳がんかもしれないね、でもまだ分からないよ。組織を取って、悪性か良性か調べてみよう」と言われました。

「検査するところの混み具合によって1週間〜10日はかかります。僕から電話するので、アグネスさんからは電話しなくていいです」と言われて日にちを頂いて帰りました。

待っている間は長いです。夜の10時半を過ぎてもかかってきません。11時近くに私が「もう諦めようよ、今からかかってくるわけないでしょう」と言ったら、夫は「諦められるもんか。だったら俺が電話してみる」と言うのです。夜の11時に電話しても先生は電話に出て、いつ寝ているのかと思いました。

話をしはじめると、夫が「そうですか。ああ、そうですか」とだんだん顔が暗くなっていくのです。「これからの日程もいろいろありますから、今から何してもよろしいですか、分かりました」と電話を切りました。私が「えっ、今から行くの? やっぱいい良くなかったの?」と言ったら、「ああ、そうだよ。おまえ、乳がんだよ、乳がん」。これが私の告知でした(笑)。

先生はとても丁寧に説明してくれました。私の乳がんは粘液がんといい、がん細胞自ら粘液を出して、そこで浮いているような感じで、袋のようになっているというものでした。そして浸潤がんみたいに、硬くなっている、しこりになっているがんもあるというのでした。でも、しこりになっているのは極めて小さいステージ1だから、早期に癒えるでしょうと言われました。

先生は早めに手術をしたいと言いますが、私は秋が一番忙しく、できたら年末まで待つてほしいと言ったら、「待てない」と言われました。「リンパに転移してしまうと、手術が大変になってしまうし、リンパも取らなければいけなくなる。リンパ腺にまで転移してしまうと、全身に行きやすくなるから、再発する可能

性も高くなる。だからリンパに行く前にできるだけ早く手術したい」と言われました。スケジュールがない。9月30日の後です。先生とスケジュールを合わせてみたら、先生が唯一空いていた日が10月1日でした。10月1日、そのときは知らなかったのですが、ピンクリボンの日なのです。私は後で知って、運命的だと思いました。

10月1日に手術するというところで、9月30日に入院しました。そうしたら何と、香港から怖い医者の方がやってきました。そして、いきなり病室で主治医と議論を始めたのです。姉が「先生、こいつのおっぱい全部取っちゃってください」と言うのです。先生は「えっ、まだ早期だから温存手術でいいですよ。全摘は要らないです」。姉は「後の治療も面倒くさいから、もう全部取っちゃってくださいよ」と言い、先生が「いや、良心から言う取らなくていい」と言っていて、そのうちに先生が、「ちょっと待ってください。僕たちのおっぱいじゃないので、本人に聞いた方がいいと思います」と言いました(笑)。「ねえ、もうおっぱいに未練はないでしょ」「未練はないですよ」「ほら、本人も取っていいって言ってるんですよ。言っていないですよ、私は「未練はない」と言っただけなのです(笑)。



先生があきれて「アグネスさん、決めてくださいよ」と言いましたが、私は正直言って患者になつたばかりなので何がいいかわからないのです。だから本当に迷いました。私が出した結論は、もしリンパに転移していたら、リンパも取れるしもう全摘でもいい、もしリンパに転移していなかったら、残せる分くらいは残してくださいというものでした。だから手術室に入るときは、おっぱいを残して出てくるのか、なくして出てくるのか分からなかったのです。また、麻酔がかかったら何も分からないので、ぱっと目が覚めたら、看護師さんがまた目の前にはいます。日本の看護師さんは顔をたたきません。大きい声で何か言っているだけです。何を言っているかだんだん聞こえてくると、「転移してなかった

よ、手術成功よ！」と言っていたのです。先生たちも叫んでいます。「転移してなかったよ。手術成功だ！」。立ち会ったうちの姉も叫んでいるのです。「おっぱいが残っちゃったわよ！」(笑)。もうみんなですごく喜んでくれていたんです。毎日手術している先生たちが、一人の患者にそこまで熱心で、そのとき、感謝の気持ちがいっぱい湧いてきました。私は告知された後、車の中以外は泣いていなかったのですが、その日は手術が終わった段階で泣きました。

みんなの声そして感謝

乳がんを発表したら、心配してくれる声、Eメール、花、水、漢方薬、たくさんいろいろなものが来ました。本当に感謝しました。忘れかけていた友達、苦手な親戚まで、すごく優しくしてくれました。そのとき、すごく恥ずかしかったです。反省しました。人生は一度だから、出会いは本当に大切にしないでいけないのです。

私は手術後、組織を調べてみたら、境目が狭かったということを取り残し可能性大と言われ、やった方がいいということでも放射線治療を受けることになりました。合計で38回ぐらい受けました。放射線治療が終わったら、もう年末です。そしてホルモン治療が始まります。一番つらかったのはホルモン治療でした。飲んでから1週間くらいどつと副作用が来ました。いわゆる更年期障害です。それも、いっぺんに来た感じがするので。

悩みました。でも私は飲み続けました。なぜかというところ、末っ子がまだ10歳だったからです。死ねないと思ったのです。手術前には私は神様に5年くださいとお願ひしました。うちの子はまだ小学校5年生。せめて義務教育が終わるまで見届けたいから、一生懸命生きるから、5年くださいと願ったのです。もし治療をやめて再発して死んだら、すごく悔いが残ると思います。どんなに苦勞しても絶対に薬を飲み続けて、少なくとも中学校を卒業するまで見届けたいと思って飲み続けました。でも3年半ぐらいいたたら腫れなくなりました。痛くなくなりました。慣れてくるのです。

早期発見・命のタスキ

何で私は今、皆さんの前で立っていられるかって？ 早期発見だからですよ。そのおかげで、小学生だった子が今年、成人式を迎えることができました。がんは人を選びません。一生懸命健康に気を付けている人でも、がんになります。「すごく気を付けたよ」とかは関係ないのです。これさえしなければあなたは絶対にがんにならないという予防法はないのです。自分を守る、今できる一番確実な方法は何かというと、早期発見です。

私は今、リレー・フォー・ライフやピンクリボンなどいろいろな活動に参加していて、がん患者にも、職場に戻ることもか、応援することか、一生懸命いろいろなところで話をしています。私が一番言いたいのは、命はとっても美しいということ。一日でも長い、周りの人たちの命のためにも、自分の命のためにも、ぜひ予防、検診を心がけてやっていただきたいです。ただし、命は終わらないのです。それはリレー・フォー・ライフで覚えた。小刻みな命、例えばアグネス・チャンという命は終わるかもしれないけれど、大きな意味の命は終わりません。私が先輩たちのことを忘れずに、彼女が目指していたことを一生懸命やっていると、彼女は私を通して生きています。皆さんは、先輩たちと一緒に生きていなくても、私を通して先輩たちと会っていることを続けてやってくれば、私も先輩を通して生き続けるのです。まさしく命のタスキ、命のリレーです。そう考えると、死ぬことも怖くありません。でも、せつなく今生きているのですから、できれば明るく、さわやかに生きていきたいと思っています。そして、できるだけ長く走れば後輩が楽になるのではないかな、ぜひたくを言えば美しく生きていきたいなと思います。それも目指してこれからも皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

最後の最後に、歌手なので歌で締めくりたいと思います(拍手)。がんになって作った歌があります。「この良き日に」という歌です。なぜかというところ、がんになって、毎日が良き日だからです。いつも朝起きて調子がいいと「ハッピーバスター・ツー・ミー」と歌いたくなる、毎日が誕生日ということ、感謝の気持ちで、春夏秋冬を思っ作った歌です。日本は四季が美しいから、それを見られるのががん患者としては最高のご褒美なのです。今日は、時間が限られているので、春だけ歌います。聞きたい方はぜひCDを買って(笑)、1年を聴いていただければうれしいと思います。歌手印税は、全て日本対がん協会に寄付するので、皆さんがどきどきと買ってくれば、募金ができます。それではこういう歌です。聞いてください。「春」です。

「この良き日に」

生まれたことに 出会えた人に 歩いた道に

感謝 感謝

桜が咲き 花びらを浴び

春の匂いに 希望を抱き

この良き日に この良き日に

同じ夢 見ようよ

今日は皆さん、本当にありがとうございました(拍手)。





町のイメージキャラクター「おりひめ」

わが町のがん検診

中能登町 保健師 向井 幸子

がん検診受診率向上の取組み

◆検診の体制

- ・各地区集会所等23か所巡回による肺・大腸がん検診の実施
- ・休日における男女総合健診や託児つき女性総合健診の実施
- ・夜間女性がん検診（骨密度測定を併せて）の実施

◆受診勧奨及び周知

- ・全対象者に個別案内、節目年齢に対する再勧奨案内
- ・特定健診と併せての電話や訪問等での受診勧奨
- ・広報、ホームページ、音声告知端末、CATVでの周知
- ・保健推進員さんによる地区での受診勧奨や受診率向上キャンペーンの実施

◆若い世代への普及啓発

- ・3歳児健診及び町内保育園を通じてのがん予防普及啓発リーフレット配布

中能登町のがん検診と受診率

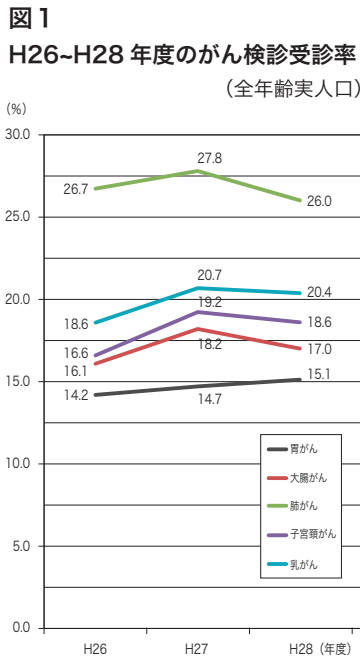
中能登町は石川県のほぼ中ほどに位置し、平成17年3月に旧鳥屋町、旧鹿島町、旧鹿西町が合併し誕生しました。面積は89・45km²、平成29年4月現在の人口は18,392人で年少人口は12・0%、高齢者人口は34・3%と少子高齢化が進んでいます。そのため、本町では「ふるさと ふれあい 心を育む 中能登町」を基本理念として「住んでよかったと思えるまちづくり」事業を推進しており、特に安心して子どもを産み育てられるように、子育て支援サービスの充実に積極的に取り組んでいます。ここ数年（H25～27）のがんによる死亡者数は年間約55人で全死亡の20～25%を占め、死因の第1位となっています。また、がん検診で毎年約10人以上のがんが見つかっており約7割の方が早期発見となっています。

種類：胃、肺、大腸、乳、子宮頸、前立腺

実施期間：6月～10月に集会会場で実施

※胃（胃内視鏡検査）、乳、子宮頸がん検診は医療機関でも実施（7月～12月）

H26～28年度の受診率は図1のとおりです。いずれのがん検診も伸び悩んでおり、国が目標としている受診率50%には届かない現状となっています。



要精密検査受診者の受診状況と取組み

ここ数年の要精密検査の受診者状況は下記表1のとおりです。

町では、要精検者のうちハイグレード判定者には訪問で直接受診を勧めています。また、平成28年度からは未受診者全員に対して個別通知や電話での受診勧奨を行います。

受診率向上に努めています。



表1 精密検査受診率とがん発見者数

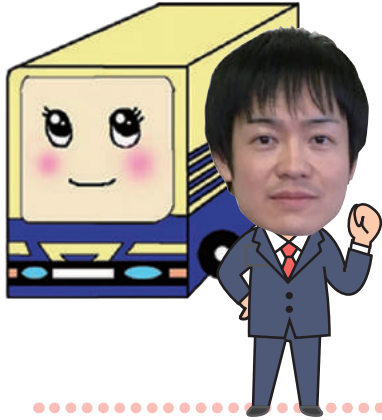
※() は早期発見者数

がん種別	精密検査受診率	H26年度	H27年度	H28年度
		がん発見者数(人)	3 (1)	3 (2)
肺がん	精密検査受診率	87.0%	97.5%	87.5%
	がん発見者数(人)	1 (1)	1 (0)	1 (1)
大腸がん	精密検査受診率	66.7%	74.3%	71.1%
	がん発見者数(人)	2 (2)	8 (6)	1 (1)
子宮頸がん	精密検査受診率	100.0%	81.8%	100.0%
	がん発見者数(人)	1 (1)	2 (1)	2 (2)
乳がん	精密検査受診率	97.0%	82.5%	100.0%
	がん発見者数(人)	0 (0)	2 (1)	2 (2)

今後も、成人病予防センターの方々と連携し、がんによる死亡者数を減少させるためにもがん検診及び精密検査受診率の向上に取り組んでいきたいと思っています。

はじめまして！ 私たち、センターのフレッシュマンです！

名前：^{まちもと}町元 ^{じゅん}純
 職種：業務課 書記
 採用年月日：平成 29 年 4 月



- ①出身地：石川県金沢市
- ②趣味：旅行（東京ディズニーリゾート、温泉）、カラオケ
- ③特技：バスケットボール、人と会話すること
- ④好きな食べもの：辛い物、特に中華料理
- ⑤メッセージ：

こんにちは。平成 29 年 4 月からこちらで働くことになりました町元純と申します。私は、健診業務や受付業務、そして運転業務を担当しています。受診項目の確認や料金徴収は正確にできるように頑張ってきたので、今後は今よりもスピードを上げて効率良くしたいと考えています。また、遠方に行く際は、出発時間が早い時もありますが、安全に健診会場まで運転をしています。（同乗者の皆さん、万一のために必ずシートベルトをしてください。）今後、胃バスや胸部バスを運転するため、今は教習所へ通い大型 1 種免許の取得に励んでいます。（集中して練習するので、相当疲れます。）

毎日楽しく過ごす上で最も大切な健康。この健康を守る、病気を予防するという仕事は、社会的貢献も大きく、今の仕事に就くことができ大変嬉しく思っています。まだ、分からないことが多く毎日が勉強の日々ですが、少しでも良好な健診となるようにこれからも精一杯努力していきますので、よろしく御指導願います。

末筆ではございますが、県民の皆さん、自分自身の健康と愛する家族のために、1 年に 1 回は健康診断を必ず受診されるようお願いしたいと存じます。

- ①出身地：石川県金沢市
- ②趣味：読書、動物観賞
- ③特技：検約
- ④好きな食べ物：アイス、ハンバーグ
- ⑤メッセージ：

私は主にセンターでの電話対応や経理業務に携わっております。検診の予約や結果通知に関する問い合わせのほか、検診についての心配事を耳にすることもあり、特に初めて検診を受けられる方は不安を感じていることと思います。私自身まだ知識が浅く、ご迷惑をおかけすることもあります。受診者の皆様の不安を少しでも解消し、気持ち良く受診できるよう日々精進を重ねていきます。

また検診会場での受付では、お忙しい中会場へ足を運んでいただいている受診者の皆様を、できるだけお待たせせず正確にご案内することを心がけ、検診を受けて良かったとご満足いただけるよう向上に努めます。

名前：^{おちあんな}越智 杏奈
 職種：総務課 書記
 採用年月日：平成 29 年 4 月



- ①出身地：富山県氷見市
- ②趣味：洋画・海外ドラマ鑑賞、お菓子作り、ゲーム、運動少々（バスケ、テニス）
- ③特技：料理、Excel・Word 操作、細かい作業、多種多様なアイデアを考える事
- ④好きな食べもの：お菓子全般、ピザ、しゃぶしゃぶ、魚介類、てんぷら、焼き鳥
- ⑤メッセージ：

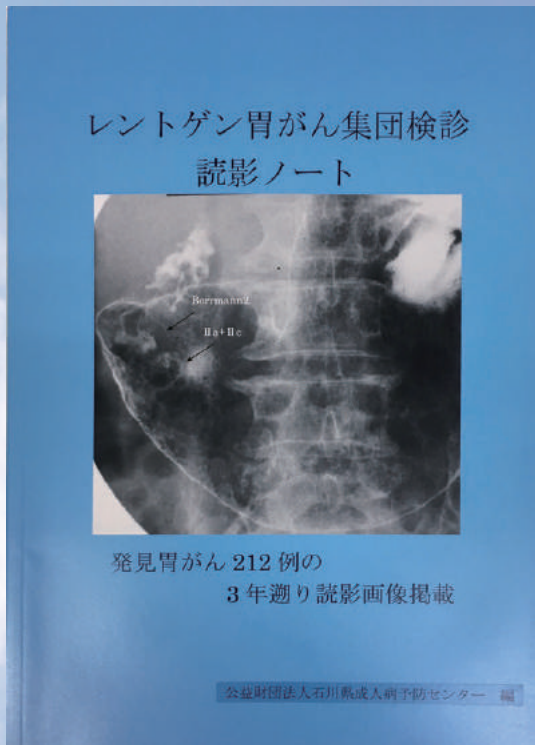
自分は健診を受けられた方々の診断結果の集計や、提出先へのファイルやディスクなどの作成を主な業務として行っております。私がこの業種を志望した理由は、少しでも人を助ける仕事に携わりたかったからです。

高校生の頃、初めて椎間板ヘルニアが発症し、手術を受けることになりました。その時に親身になって身体のことを考えてくださった先生や、リハビリや身の回りのお世話などを手厚く看病してくださった看護婦さんなどに感銘を受け、自分も人を助ける仕事がしたいと思い、自分に何ができるのかを考えた結果、得意分野である情報処理などのパソコンスキルを用いることで、影で人の助けになる仕事をしようと考え、弊社で働くことを決意しました。

働き始めてからまだ日は浅いですが、少しずつ慣れ始めており、今では一日でも早く一人前となって、がんに悩む方々の力になれたらなと思っております。

名前：^{もりした}森下 ^{りょうせい}凌生
 職種：情報課 書記
 採用年月日：平成 29 年 4 月





「レントゲン胃がん集団検診読影ノート」 発見胃がん212例の3年遡り読影画像掲載 を編集して

公益財団法人 石川県成人病予防センター

理事長 素谷 宏

平成16年から平成27年の12年間で当センターのレントゲン胃がん集団検診で発見された胃がんは594例でした。その中で詳細がわかっている561例(94・1%)について3年遡り再読影を行いました。

集団検診の画像は色々な制約のために病院で撮られた画像よりでき映えが劣ることは否定できません。しかし流れ作業的にかつ短時間で多数の受診者に対して撮られた画像にしてはほぼ読影に値する画像ばかりでありました。とは云っても誰が見ても一目で病変のわかる画像は無いといつてよいのです。

集団検診の画像でがんを見つけるには病変の一部か病変の存在によって生じたわずかな異常所見を手掛かりにするしかありません。それ故、教科書に載っているようないわゆる「きれいな」「良い」画像で勉強しても検診画像の読影には殆ど役に立ちません。もちろん、がんを発見するためには病変の全貌が描出されている画像であることが理想です。放射線技師の画像作成能力の向上のためにもこの本が利用されることも願っています。

公益財団法人石川県成人病予防センター 編

過去画像でがんの軽微な異常所見を予め知ること新たに遭遇した軽微な所見を的確にチェックすることができるようになります。このことは読影医のみならず放射線技師も会得すべき技量です。怪しいと思つたら追加撮影を遠慮なく行い読影医の注意を引くように仕向ける必要があります。

今回、過去画像を再読影してがんのいろいろな異常所見を分類してみると、21項目になりました。異常所見がたったの21項目に要約できるとは作業に着手した5年前には考えもしませんでした。

99・9%の胃がんを網羅しているこの21項目の異常所見に精通すると「要精検率」を上げることなくもつと初回受診発見がんを増やすことになると思っています。

「初回受診発見がんを増やそう」を胃がん検診の新しい目標にして今年も努力してまいります。



リレー・フォー・ライフ (がん患者チャリティイベント) 金沢で初開催

日時：2018年9月29日(土) 12時～30日(日) 12時まで
会場：いしかわ四高記念公園(中央公園) 金沢市広坂2丁目

「がん患者は24時間がん向き合っている」をコンセプトに24時間歩き続けがん征圧を目指すリレー・フォー・ライフが金沢で開催されます。

リレー・フォー・ライフはがんの告知を乗り越え、今を生きるサバイバーや家族などの支援者を讃え祝福する、「祝う(Celebrate)」・がんので亡くなった愛する人へのび追悼する「しのぶ(Remember)」・がんの予防や検診を啓発し、征圧のための寄付を募り、がんに負けない社会をつくる「立ち向かう(Fight Back)」の3つがテーマになっています。

多くの方の参加お待ちしております。詳しくは石川県成人病予防センターまで。

編集後記

「排除」この一言で流れが大きく変わった、昨年でした。

改めて一言の怖さを思い知らされました。一言で大きく変わる言葉に「がん」があります。医師から「がん」と告知された瞬間、人生が変わったと、がん患者の方々からよく聞きます。同じ「がん」でも頭で早期が付くか、進行が付くかで天国と地獄です。

「がん」と云う一言を天国にするにはがん検診が今のところ一番の選択ではないでしょうか。この世から「排除」されない為にもがん検診を受けましょう。

